

平成24年度 国有林モニター会議について

東北森林管理局 企画調整室

東北森林管理局では、開かれた「国民の森林」としての管理経営を一層推進するため、国有林モニター制度を設けて双方向の情報受発信による対話型の取組みを進めております。

平成24年度からは、東北5県にお住まいの35名の方に国有林モニター（任期2年）に就任していただき、東北森林管理局が行う施策を含め、森林・林業情勢について広くお伝えするとともに、現地見学会やアンケートなどを通じ、ご意見等をいただきました。

こうした中、1年の総括の場として、平成25年3月1日（金）に東北森林管理局において、15名の国有林モニターにご出席をいただき国有林モニター会議を開催しました。

会議では、東北森林管理局の主な業務を取り上げてご意見をいただきました。以下に主な意見を挙げさせていただきます。

○海岸防災林の再生について、今後膨大な数の植樹が必要になってくると思う。市民を巻き込んでどんどんと植えていけばよいと思うので、植樹できる機会を情報提供してもらえるとありがたい。

○海岸防災林の再生ではたいへんな量の土が必要になるだろうが、安心・安全を一刻も早く確保していただきたい。

○地元の自治体では被災者が住宅を再建する際に、木材利用で補助金が出るが知名度がなく、PR不足を感じる。国から市町村へ上手に働きかけてはどうか。

○イベントなどで、タレントを広告塔として起用してはどうか。森林に興味がある人は非常に多いが、活動への入り方が分からない人が多いように思う。うまく広報することに注力してほしい。

○地元の月山道路では一昨年ナラ枯れの被害が甚大であったが、昨年は少なくなっていた。森林管理署の取組の成果かと思う、引き続きがんばっていただきたい。



- 木材の利用が進めば森林整備も進むと考えている。昔は薪ストーブを使用していたが、現在は灯油に置き換わってしまった。よいストーブなど普及すればいい。
- モニター会議について、テーマが幅広すぎるため、絞ってグループ形式にしたほうがよい。
- 国産材の利用を促進するためには、搬出コストを下げる取組が必要不可欠。そのための行政施策を引き続きお願いしたい。
- 散策路などが老朽化して通行禁止になることが多い。修復に木材利用を推進しながら早期に修繕してほしい。
- モニターに対してはこまめにイベントを案内すべきではないか。
- 建築には外材を使用する一方で切り捨て間伐をしている。やはりもったいないと思う。国産材利用が進めばよい。
- 林野広報誌や毎月の発送資料でいままでの誤解が解けたことがある。見学会含め治山の重要性を理解でき、ものの見方が変わった。
- 山での植栽、下刈りなどを体験してみて、造林が容易なことではないことを知る場があればいい。木材価格の下落で山が荒れてきている。国には、市町村の山へ手を入れる政策を。

東北森林管理局では、モニターの方々の貴重なご意見を業務に反映していけるよう取り組んで参ります。

国有林モニターの皆さまには引き続き平成25年度もモニターをお願いしておりますので、忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いします。



モニター会議の様子